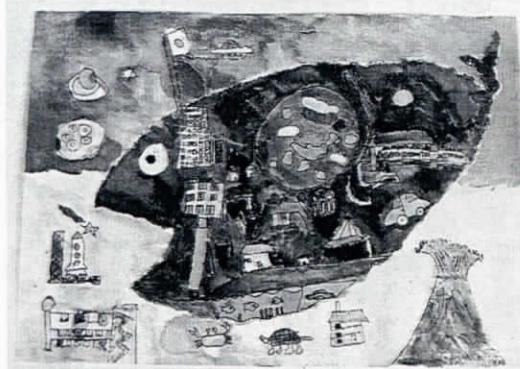


八ヶ岳通信

美術館一



「くじらのあくび」大畠圭吾君(永明小2年)の作品



蓼科をバックに野外写生



友だちの絵あったよ！小中学生作品展(絵画)



水彩画講座 10/18

—行ってみよう・やってみよう！— ～最近、美術館へ行きましたか～

好きな画家はだれですか？最近、面白い本を読みましたか？そう聞かれて、あなたはすぐ答えることができるでしょうか。茅野市美術館は図書館と一緒にになっているので、好きな絵も、好きな本もみつかるかもしれませんよ。案外、図書館は知っていたけれど、美術館があるなんて知らなかつたという人もいるかもしれませんね。図書館と併設している美術館は全国でもめずらしいんです。

普段の展示（常設展）は無料なので気軽に絵画や彫刻をみることができます。とにかく、美術館へ一度来てください。

また美術館では、市内の小中学生作品展を毎年開催しており、今年で12回目になります。絵画の部と書写の部があって、友だちや、家族で来てくれる方が多いので、毎回1,000人近い人たちが来館してくれます。児童、生徒さんの関心を高めることと同時に、大人の方にとっても美術館へ足を運ぶきっかけとなっています。10月には水彩画講座を行いました。今年は市運動公園周辺で秋の気持ちのよい空の下、風景に取り組みました。講師の山田郁夫先生は講評で「絵の面白さは、自分の心の面白さを見つけること」と言われました。普段の生活の中でも、自分の心の中の面白さがみつかるといいですね。

坂本養川

～山浦地方の汐開削の功労者～

諏訪地方の新田開発は、慶長年間（1596～1614）から盛んに行われて以降、元禄年間（1688～1703）にはすでに頭打ちの状態が続いていました。それは山浦には広大な土地はあったのですが、水の便が悪く、限られた土地しか開墾できなかつたからです。

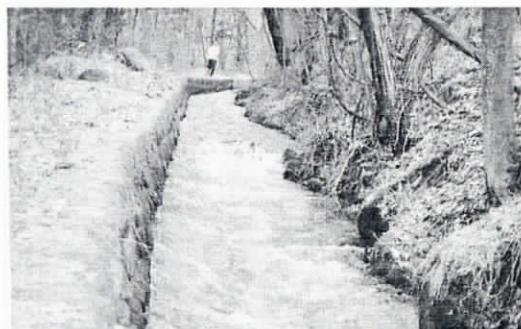
そんな時代の元文元年（1736、徳川吉宗の治世）、田沢村（現茅野市宮川田沢）に山浦地方の灌漑事業に貢献した坂本養川が生まれました。養川は幼名を太郎、通称市之丞といいました。

養川は、16才で父を亡くし、23才で田沢村の名主を勤めました。28才の時、近畿地方の進んだ開拓地の事情を見聞し、開拓の志を関東平野に果たそうと江戸に出ますが、その水利・開田計画を立てたところで病気のため安永2年（1773）志半ばで帰郷を余儀なくされてしまいます。

1年間の療養の後、養川は諏訪地方のどこを開発すればどのくらいの米の増収につながるか調査し、開発の願書を何回か藩に提出しました。

そして天明5年（1785）、藩からの許可を得て滝の湯汐の工事に取りかかり完成させました。藩は養川に帯刀を許し（武士として取り立てること）汐役人として自由に腕をふるえる立場を与えました。それからも養川は、総延長26.7里（約106.8km）にも及ぶ十数筋の汐（農業用水路）の設計をし、これを見事にやりとげました（大河原汐、車沢汐、鬼場新汐、鳴岩新汐等）。

これらの業績から、養川といえば汐、汐といえば養川といった具合に養川の名は良く知られるようになりました。



現在でも利用される滝の湯汐

そんな養川の晩年のようすを書いた記録があります。「郡方日記」（郡奉行所の日誌）の享和元年（1801）8月4日の記述は、養川の人間的側面をうかがうことができる史料の一つです。

「郡方日記」享和元年八月四日
養川の記述のみ抜粋（諏訪教育会所蔵）

坂本養川義惣髮罷在候間此上何歟
度旨内意伺出候不行歩無紛ニ候付
右之趣及御沙汰候處伺之通為致候様各
被仰聞候付養川江申聞ル

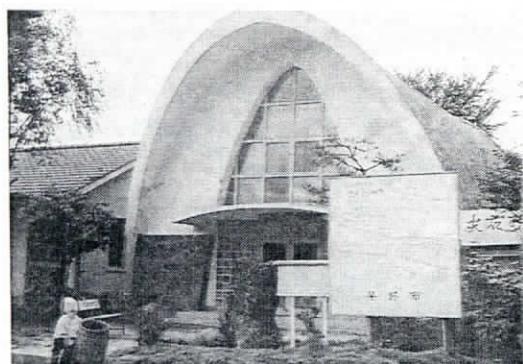
坂本養川義惣髮罷在候間此上何歟
度旨内意伺出候不行歩無紛ニ候付
右之趣及御沙汰候處伺之通為致候様各
被仰聞候付養川江申聞ル

この内容は次のようなことです。

養川が次のような願いを出しました。具合が悪くなつて、月代（額から中央にかけて髪を剃り落した部分）を剃らず髪を全部後にたらして総髪にしてあります。それで公の用事がある時は、この頭髪でも差し支えないように医者や儒者の着る十徳を着て出かけたいと思います。大小差しも許されておりますが歩くのが困難なため、針とか医者に行ったりする普通の時は脇差しだけで出かけるようにしたいと思います。この願いが出されたため、奉行所では養川が歩くのが困難なことを確認して御用人にうかがつてから上記の事を許可したとあります。

この願い出の8年後、養川は74才で亡くなりました。のちに養川の功労に対し大正4年の天皇即位の大典の時、従五位が追贈されました。

養川の足跡を茅野市ではたくさん見ることができます。総合博物館にも養川の資料が展示しております。養川の資料を見たあとで養川の汐を見に行くのも、また感慨深いものがあるのでないでしょうか。



かつての尖石考古館

日本考古学界への貢献は大きかった

元尖石考古館は、昭和54年、尖石遺跡に隣接した現在地に考古館ができてからは収蔵庫として使われてきましたが、段々に痛みもひどくなり、今度地元の南大塩区の公民館が新築されることとともに、その用地として取り壊されることになりました。

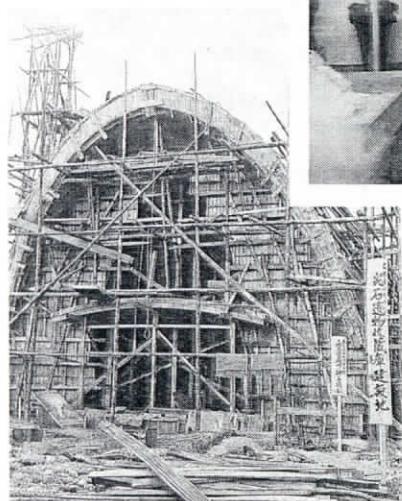
宮坂英式先生の縄文時代の集落の研究などで、尖石遺跡は国の特別史跡に指定され、これを収蔵する元尖石考古館は、考古学研究のメッカとして、またハケ岳山麓の縄文文化の触れられる唯一の考古博物館として、多くの研究者や観光客で賑わいました。また偉大な生き方をされた宮坂先生を尋ねる人たちも少なくありませんでした。三笠宮殿下、常陸宮殿下をはじめ多くの著名な方々も見え、多くのドラマがくりひろげられました。

地元の南大塩区でもこの元尖石考古館の記念碑を作り、三笠宮殿下のお手植えの松を大切に残して後世に伝えたいと言っています。

常陸宮殿下ご夫妻ご来館（昭40.）



陶芸家バーナード・リーチ来館（昭36.）



建築中の元尖石考古館（昭30.）

姿を消す 元尖石考古館 40年の歴史に幕

元尖石考古館は、昭和54年、尖石遺跡に隣接した現在地に考古館ができてからは収蔵庫として使われてきましたが、段々に痛みもひどくなり、今度地元の南大塩区の公民館が新築されることとともに、その用地として取り壊されることになりました。

この元尖石考古館は昭和30年、まだ豊平村時代に周囲の大変な労苦によって建設されました。設計は山田兼義氏、建築は諫訪市共和建設企業組合石田房茂氏、建築費は約200万円かかっています。この中には全県下小中学生全員からの尊い寄付金なども含まれています。終戦直後の当時としますと鉄筋コンクリートの建築自体が大変だったのに加えて、縄文の縦穴住居の形から考えられたドーム型のユニークな建物で、多くの人たちに親しまれてきました。

宮坂英式先生の縄文時代の集落の研究などで、尖石遺跡は国の特別史跡に指定され、これを収蔵する元尖石考古館は、考古学研究のメッカとして、またハケ岳山麓の縄文文化の触れられる唯一の考古博物館として、多くの研究者や観光客で賑わいました。また偉大な生き方をされた宮坂先生を尋ねる人たちも少なくありませんでした。三笠宮殿下、常陸宮殿下をはじめ多くの著名な方々も見え、多くのドラマがくりひろげられました。

宮坂英式先生の縄文時代の集落の研究などで、尖石遺跡は国の特別史跡に指定され、これを収蔵する元尖石考古館は、考古学研究のメッカとして、またハケ岳山麓の縄文文化の触れられる唯一の考古博物館として、多くの研究者や観光客で賑わいました。また偉大な生き方をされた宮坂先生を尋ねる人たちも少なくありませんでした。三笠宮殿下、常陸宮殿下をはじめ多くの著名な方々も見え、多くのドラマがくりひろげられました。

地元の南大塩区でもこの元尖石考古館の記念碑を作り、三笠宮殿下のお手植えの松を大切に残して後世に伝えたいと言っています。

常陸宮殿下ご夫妻ご来館（昭40.）



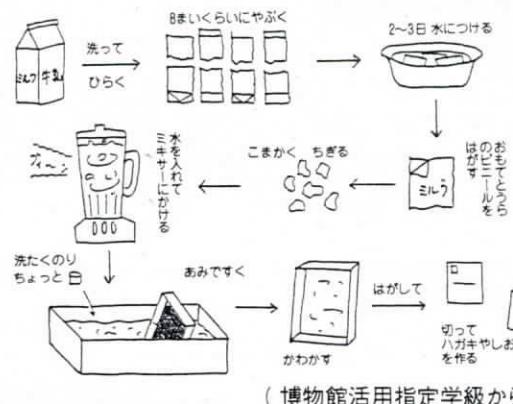
宮坂英式先生の来館者への説明

先生の人柄がにじみでた印象深いものであった

牛乳パックで紙すきをやってみよう

私たちにとって、紙はなくてはならない生活の道具です。現在日本はアメリカの次にたくさんの紙を作っていて、アメリカ人と日本人で、世界中の紙の約半分を使っています。教科書、ティッシュペーパー、はがき、紙おむつ…。少し考えてみただけでも紙には様々な用途があります。そんな紙をむだ遣いしていませんか。

紙は何度でも使える資源です。**作り方** 廃品回収で集められた古新聞等は、「古紙」と呼ばれます。集められた古紙は、機械でほぐし、インクを取り除く事で紙の原料に生まれ変わります。これからまた紙ができるのです。これを「再生



(博物館活用指定学級から)

紙」といい、ダンボールや新聞紙、雑誌、ティッシュペーパー、トイレットペーパー等に再利用します。

古紙 1 t から、再生紙が 850 kg 作れます。1 t の紙を作るには、直径 14 cm、長さ 8 m の木が 20 本くらい必要です。牛乳パック 1 kg からは、トイレットペーパー約 5 個を再生することができます。

牛乳パックは、外国の木を細かくしたものからできています。丈夫な良い紙を使っています。牛乳パックから他の紙を作つてみて、改めてリサイクルについて考えてみるのはいかがでしょうか。

こんなことも行いました 一平成 4 年度事業報告一

（考）：尖石考古館、（博）：総合博物館
（美）：美術館、（史）：守矢史料館

4/1～ 博物館学習会員証の発行

（博・考・史）

- ロビー展（4/19～3/20・順不同）（博）
- ぞうり作り（7回）
- しめ飾り作り（2回）
- 竹トンボ作り（2回）
- 風作り（1回）
- 火さり・小鳥の餌台作り（2回）
- 小鳥の巣箱作り（3回）
- 小鳥の餌台作り（1回）
- 自転車の分解（1回）
- 籐細工（3回）
- 石細工（2回）
- 機織（7回）
- まゆ人形作り（1回）
- 糸つむぎ（1回）
- 山菜教室（1回）
- 水の中の生物（3回）
- 動物・鳥類のはく製の展示
（8/2～30）
- 布を織る（10/17～11/3）

4/25～5/31 企画展「守矢文書を見る 中世の御柱」（史）

- 5/16 ミュージアムコンサート（博）
- 5/30・31 初夏の探鳥会
（童神池周辺の野鳥観察会）（博）

6/14 美術館めぐり

- （東京富士美術館他）（美）
- 6/14～6/25 繩文土器製作教室（考）
- 6～10月の第4土曜日曜日
土器製作研究（尖石友の会）（考）
- 7/7～14 第34回茅野市美術展（美）
- 7/19～8/20 藝科の洋画家展Ⅲ
田村一男展（美）
- 7/25～8/23 新妻喜永写真展（博）
博物館活用指定学級（博）
- 8/20・21 北山小学校3学年
「まゆから糸を取る」
- 8/27・9/2・4 永明小6学年
「遺跡発掘体験学習」
- 9/9・10 米沢小3学年
「牛乳パックで紙すき」
- 9/11・11/26 湖東小2学年
「牛乳パックで紙すき」
- 10/15 北山小1年2組
「いろいろ紙を使って遊ぼう」
- 10/22 湖東小4学年
「べんり孫の手を作ろう」
- 11/14 豊平小1年1組
「いろいろ紙を使って遊ぼう」
- 1/26・27 米沢小4学年
「テンガサからとこうでんを作ろう」

8/8・9 繩文土器製作教室（子供の部）（考）

- 9/9～17 移動美術展
（東部中学校会場）（美）
- 9/18～25 移動美術館
（北部中学校会場）（美）
- 10/4 県外博物館見学と野外学習
（瑞浪市化石博物館）（博）
- 10/4 環境整備及び御柱祭
（尖石後援会）（考）
- 10/16～18 （全3回）水彩画講座（美）
- 10/17～11/3 民俗資料収蔵品展（博）
「布を織る」
- 10/18 繩文土器野焼き（考）
- 10/18～12/13 （全9回）古文書解説講座（博）
- 10/18～2/14 （全5回）ボランティア
講座
- 10/24 星空観察会（博）
- 11/6～25 第12回茅野市小中学生作品展・
絵画の部（美）
- 11/29～12/13 研究・創意工夫展（博）
- 12/13 冬の探鳥会（諏訪湖の水鳥観察会）
（博）
- 1/24～2/9 第12回茅野市小中学生作品
展・書写の部（美）
- 2/7 映画観賞会「紅の豚」（博）

茅野市の博物館だより 八ヶ岳通信 No.8 発行年月 発行年月日 平成5年2月26日

編集・発行 茅野市八ヶ岳総合博物館 〒391-02 茅野市豊平6983番地 TEL. (0266) 73-0300
茅野市尖石考古館 〒391-02 茅野市豊平4734-132 TEL. (0266) 76-2270
茅野市美術館 〒391 茅野市玉川1500番地 TEL. (0266) 73-5440
茅野市神長官守矢史料館 〒391 茅野市宮川1389番地の1 TEL. (0266) 73-7567